

令和4年度 世田谷区立 喜多見小学校
学校関係者評価自己点検表

A とても思 う	B 思 う	C 思 わ な い 	D 思 わ な い	E わ か ら な い
----------------	-------------	---------------------------	-----------------------	----------------------------

1 学習指導について

自分は、子どもたちが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている。	3	28	0	0	0
自分は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。	5	26	0	0	0
自分は、子どもの話し合ったり発表し合ったりする機会を作っている。	5	26	0	0	0
自分は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。	3	23	4	0	1

理由

- ・コロナ禍になり、タブレットを使った授業を以前よりするようになった。
- ・話合いは、少人数でできる機会を設けてきた。タブレットに入れてもらった写真を見せながら、発表をさせるようになった。どう授業を行っていくか日々考えている。学年や他の先生方の授業の方法を見て、様々な学習指導法をこれからも学んでいく。タブレットを活用しているが、タブレットを忘れた児童への対応や、従来のプリント学習のよさも見直して、よりよいものをを目指したい。ICT機器を最大限利活用して、できるだけ分かりやすい授業を目指して行っている。個に応じたICTの効果的な利用の方法を考えていく。

【改善策・考察】

- ・映像やタブレット活用した授業を工夫して行ったり、少人数での話し合いの場を設けたりして分かりやすい授業を目指している。一方で、ICT機器を活用した授業実践方法について自信がもてなかったり、活用の仕方がいつも同じ方法になってしまったりと課題もある。
- ・今後も、OJT研修等の時間を活用してICT機器を利用した授業について教員間で情報共有したり、研修したりしていく。

2 生活指導について

自分は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。	6	25	0	0	0
本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。	2	24	5	0	0

理由

- ・指導をしても、廊下を走る、ピロティでボールを投げる、休み時間にボールを蹴るなど、徹底できていない。子どもたちはルールを理解し、繰り返し指導してきているが守れていないことがある場面がある。これからも繰り返し指導していく。理解しているとは思うが、行動は伴っていないと感じる。赤ペンの使用や廊下歩行など喜多見スタンダードに基づいて全教職員で指導していく。喜多見スタンダードもあるが、全体で把握ができているのかが少し気になっている。先日のプリントのように、最低限守りたいこと、守らせたいことをきちんと周知・徹底したい。教員が喜多見小スタンダードをもとに統一して指導していく。

【改善策・考察】

- (考察・課題)喜多見スタンダードを活用しながら指導を行っているが、廊下歩行や休み時間の過ごし方が安全でない児童が多く、守るべきことを徹底できていない。
- (改善策)各クラスで喜多見スタンダードを見直す時間を確保していく。また、教員間でも喜多見小のルールや約束を確認し、指導を統一していく必要がある。

3 学校行事(運動会、学芸会、宿泊行事など)について

学校行事は、子どもにとって楽しい。	8	22	1	0	0
学校行事は、子どもにとって達成感がある。	9	21	1	0	0
自分は、子どもの意欲を大切にしている。	5	26	0	0	0

理由

- ・運動、図画工作等、苦手な児童もいると思うので、誰もが楽しいわけではないと思われる。
 - ・子どもの声を聞いて行事を進めていきたいと意識している。それがどの子に対しても納得のいくものとなることが難しので、説明や理解を得られるように話をし、多くの子どもたちが楽しめる、達成感を得られるようにこれからも指導していく。
- コロナ禍での制限もまだあり、十分に楽しめているかは不明。コロナ禍での開催のため、そこへのモチベーションを上げたり、保ったりすることが難しい。少しずつでも高学年を中心に係活動等を再開させ、自分たちが作り上げているという実感をもせたい。すまいるルームに通っている児童の中には運動会や展覧会などの行事が苦手な児童がいる。どのようにしたら児童の苦手さを軽減して取り組むことができるか相談していく。

【改善策・考察】

- ・コロナ禍で、今まで通りのやり方で行事を行うことは難しいが、児童が充実感や達成感を得て、学校生活を楽しむためにも大切にしていきたい。運動や図画工作等技能面で困難を抱える児童への対応策を考える必要がある。
- (苦手な児童にどこまで求めるか)
- ・コロナ禍で制限することや開催方法を毎年見直す必要がある。児童の参加方法については個人差があるので、一人ひとりの目標やめあてを設定し、児童それぞれが達成感を味わえるよう指導していく。

4 キャリア教育について					
自分は、子どもに目標をもたせ、その実現のために支援している。	3	27	1	0	0
本校では、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。	0	29	1	0	1
理由 専科の立場でどこまでできているかわからないが、意識はしていきたい。授業の中でも将来について考える単元があるため、できるだけ丁寧に扱ったり、自分自身の経験や考えを異文化理解の授業とともに話したりしている。					
【改善策・考察】 ・学習や行事など、教員が意識をしてキャリア教育に取り組んだ。今後も様々な活動を通して、自分を見つめたり他者とかかわったりする機会を設けていきたい。 ・児童の自分理解、他者理解を目指し、明るい未来を想像する児童の心の育成を続けていく。					
5 教職員について					
本校の教職員は、丁寧に指導している。	9	21	1	0	0
本校の教職員は子どものことを相談しやすい。	7	23	1	0	0
理由 管理職や学年、職員室で子どものことを相談した際には、様々な助言をいただける環境にある。自分がもっと経験を積んだ時には、本校の教員の方々のようになりたい。 言葉遣い等は改善の余地があると思う。どの先生方も児童一人ひとりのことをしっかり把握されているため、情報共有やとっさの対応などもできる。					
【改善策・考察】 ・OJT研修や生活指導夕会を通して、教員間の情報共有はよくできている。 ・言葉遣いについては教員一人ひとりが気を付けていかなければならない。いつでも児童や保護者に見られているという意識をもっていくようにする。					
6 全般について					
本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。	3	27	1	0	0
子どもは、家庭で自主的に学習をしている。	0	17	12	0	2
本校は、近隣の(幼)・小・中学校で構成する「学び舎」による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。	1	27	1	0	2
本校の教育活動に満足している。	0	31	0	0	0
子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。	0	31	0	0	0
理由 ・自主的に取り組める児童と、できない児童の差が大きい。個別指導をするとともに、家庭の理解を求めていく。家庭学習に自主的には取り組めていない児童が多いように感じる。児童の意欲を引き出す方法を試行錯誤していく、自主的に学習に取り組めるようにしていく。 ・提示された宿題だけしかやって来ない児童が多いので、それが自主的と考えるかは疑問をもつ。子どもたちは学校生活を楽しんでいる様子がとても見られるが、一方で「自分がしたいことだけをしているから楽しい」というような場面や児童も見られるので、そこは心配である。					
【改善策・考察】 ・家庭差が少しでも縮まるように、児童・家庭への個別連絡を引き続きしていく。また、児童が主体的に活動できるような教育活動を我々教員が率先して考えていく必要がある。学年間の交流や学年の枠を超えて(OJTの時等)取り組みの成功例などを共有し、より活発な教育が行えるように精進する。					
7 学校からの情報提供について					
本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。	7	23	0	0	0
「学び舎」の区立(幼稚園・)中学校について情報が提供されている。	2	25	2	0	1
本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。	2	27	1	0	0
本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。	6	22	2	0	0
理由 ・保護者会で児童の様子は知らせているが、普段の児童の様子は、今の学校公開だけでは伝えきれていない。ホームページの情報提供は学年によって差異があるように感じられる。					
【改善策・考察】 ・ホームページの定期的な更新(例えば2週に1回など)を主任会の時に話題とし、実践していく。					
8 学校運営について					

	学校の重点目標が明確である。	5	25	1	0	0
	校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	6	23	2	0	0
	理由					
	【改善策・考察】 ・肯定的な意見が多かった。今後も「チーム喜多見」を意識し、職員間の風通しをよくしていく。また校長の学校目標実現に向けて、職員が協力的に教育活動に取り組めるように努めていく。					
9	家庭と学校との連携について					
	保護者は、学校公開にすすんで参加している。	5	25	1	0	0
	私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している。	3	26	2	0	0
	私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している。	4	26	1	0	0
	理由					
	【改善策・考察】 ・学校公開の保護者参観率はとても高かった。					
10	地域との連携について					
	本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。	6	24	0	0	0
	本校は、地域の活動などに協力的である。	6	23	1	0	0
	理由					
	・コロナ禍で、お祭りや地域の行事が中止になっているため、仕方がない部分もある。児童館の催しには参加し					
	【改善策・考察】 ・児童館祭りには多くの教員が参加していた。コロナ禍になり、地域の行事が少なくなってきたが、今後も参加できるものにはすすんで参加していきたい。					
11	学校の安全性について					
	学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。	3	28	0	0	0
	本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている	10	21	0	0	0
	本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。	2	26	2	0	0
	理由					
	・引き渡し訓練で、地震の時の訓練はしているが、1年生、4年生以外はマイタイムラインのような自宅でどうしたらしい いかの指導はなかなかできない。今後は防災ノートを活用し、指導していく					
	【改善策・考察】 ・防災ノートの活用を今後も続けてく。マイタイムラインは、家庭で取り組むものなので、保護者会時や学年だより等で家庭での取組をお願いする。					
12						
	児童は挨拶をよくする。	0	17	13	1	0
	場に応じた言葉遣いができる。	2	24	4	0	1
	児童は、本を読むことが好きである。	1	19	7	0	4
	理由					
	・挨拶する児童はもちろんいるが、声をかけても戻ってこないことがある。 ・場に合わない言葉遣いを聞くことがある。その度に指導していく。 ・タブレットの利用の仕方について、把握できていない。タブレットのルールを分かっていて学校で正しく使用できても、家庭でルールを守って使えていない児童や、保護者の方がルールを理解していない場合もある。保護者会で説明したり、児童には繰り返し指導したり、継続的な指導をしていく必要がある。 一部の児童は、適切な言葉遣いができることが多いと感じる。継続して指導を続けていきたい。繰り返し指導をしても個人差(家庭差)がある。					
	【改善策・考察】 ・挨拶運動時は挨拶をしたり、挨拶に個人差がある。全体指導に加えて個別指導も行う。また家庭との連携も必要となるので協力をお願いする。 ・その都度指導はしているが、言葉遣いには課題がある。上記同様家庭と連携していく。 ・タブレットの活用やICT機器との向き合い方については引き続き保護者への協力を願う。また、家庭教育学級等PTA活動でもICT機器についての講義や研修を検討してもらうなど、PTAとも連携して課題解決に取り組みたい。					

|